



あゆみ

No. 180

令和 6年12月17日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 茶山寮・第二茶山寮
〒863-0006 熊本県天草市本町下河内 680
TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090
E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp
社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>
施設の旬の話題を「レイザンTOPIX」にて更新中です。



第二茶山寮チーム



茶山寮チーム 祝・優勝

『管理者の責務』

施設長 飽田 一夫

今年も残り少なくなりました。施設では年末の恒例行事であるクリスマスマス会や餅つきが控えており、毎日そのことを尋ねにえられる利用者さんも少なからずおられ、楽しみにしてくださっているのを肌で感じます。

今年日本やアメリカ、欧州で国の最高責任者を決める選挙が相次ぎ、今後の世界情勢を決める上で大切な年だったと思います。結果が自分の思い通りだったかどうかはともかく、最高責任者の考え一つで世の中は大きく動いていくのだということを、様々なニュースから実感しているのは私だけではないと思います。

翻って施設も同じです。私が茶山寮の管理者になって二十年をゆうに越えました。第二茶山寮の管理者を兼務するようにもなっても既に十年を越えています。福祉の世界で働いた経験のない私は決して優秀な管理者ではありませんでした。今でもそうです。そんな私になんとか管理者を続けることができ関係者の皆さん、そして職員の協力が

あったからです。私一人では何もできません。そんな私が一つだけ胸に刻んできたのは「利用者優先」という気持ちを持ち続けるということでした。施設を運営していくには、制度面、経済面、人事面他様々な課題が日々生まれてきます。その都度いくつかの道から一つを選んでいかなければなりません。

その指針としてこの言葉を胸に秘めてきたつもりです。当たり前と言えども当たり前の言葉ですが、「利用者優先」といってもそこには様々な価値観と方法論が生まれます。その中から一つを決めるのに何日も悩むこともありましたが。選んだ道が正しくなかったのではないかと悔やんだこともありましたが。ですが、管理者は自分の哲学をしつかりと持ち、職員がその考えを共有してくれるようになるまで職員に伝え続ける事が大切です。私が独りよがりにならず、常に障がい者福祉の実践とはいかなるものかを自分に問い続けていくことで、職員がそれを受け入れてくれることを願いつつ、今日も朝の挨拶をします。

サービスの現場より



『疑問を持つとう』
荅山寮支援課長 吉鶴 かおり

今年度に入り九ヶ月が過ぎようとしていきます。重点目標である「疑問を持つとう」について日々感じる事があります。利用者の方々と共に生活をしていく中で、不穏状態により急に大声や自傷行為がある方、発熱等により体調不良、食事摂取が思うようにならない、夜間眠れない等の色々な症状の方が見られます。症状が出る前はどうか、その方のか、環境の変化はなかったのか、その方の思いはどうか等、色々な視点から考える事が必要だと思います。その場だけを見るのではなく日々の状態を遡り、どの様な要因があるのかを疑問にとらえ対応していく事が必要です。

利用者個人々人により支援の取り組み方、関わり方も違い、又、支援員の考え方にも違いがあります。支援員個人の考えでは統一した支援に繋げる事は難しく、検討会にて意見を出し合いその中で決定した支援を行っていかなければなりません。更に検討した内容でも実際支援を行う中で、「ちよっと違うな」と疑問に思う事も少なくはありません。その為、評価・再検討・実施（PDCA）を繰り返して、利用者の方々が安心・安全に生活出来る様に支援に繋げていきたいと思えます。



『担当利用者さんへの取り組み』
荅山寮支援員 松下 龍聖

Kさんへの支援を通して改めて障がい者の方一人ひとりが異なる個性と能力を持つていることを実感しました。

Kさんの好きな事、得意な事、そして困っている事を理解し、その人に合った支援を提供する事の大切さを学びました。特に印象に残っているのは、Kさんと一緒に行った歩行活動です。最初は拒否が見られていたKさんも声掛けの方法を変え工夫をする事で、参加回数を重ねることに楽しそうに活動に参加する姿が見られ、私も大きな喜びを感じました。この経験から、根気強く声掛けを続ける事の大切さ、そして小さな成功体験が大きな自信に繋がることを学びました。しかし、支援の中で課題も感じました。Kさんの排泄支援に對して、もっと効果的な支援方法はないかと日々考えています。今後は、他の職員の方々との連携を強化し、Kさんの為により良い支援を提供できるよう努めていきたいと考えています。今回の経験を通して、私はKさんから多くの事を学びました。これからもKさんをサポートし、共に楽しい時間を過ごしていきたいと思っています。



『担当利用者さんへの取り組み』
第二荅山寮支援員 橋本 定

私が担当させていただいているYさんはとても明るくお話が大好きな方です。しかし、言葉を出すことが苦手なコミュニケーションを取る時や伝えたいことがある時は、身振り手振りのジェスチャーで話をされ、内容が伝わらずに興奮されたり相手の頭や体を強く押ししたりして興奮される事が多くありました。現在は利用者さん同士でコミュニケーションを取る際は支援員が間に入り、Yさんの言葉を代弁したり、興奮する姿がみられた時は付き添い、話を聞くことで落ち着いた生活を送られています。

そんなYさんの目標は色々な商業施設に行き楽しむことです。十月、十一月には洋服を買いだめしたいというご希望がありユニクロへ外出。あらかじめ話し合い買うものを決めたり、好きな服を選んで買ったりとYさんが欲しい服を買う事ができました。これからもYさんの意思を尊重し、楽しんで生活できるよう支援していきたいと思えます。



『入職して一年が経ち』

荅山寮支援員 井上 愛佳里

令和五年二月に荅山寮へ入職し一年が経過、もうすぐ二年になります。以前は全く違う職種に勤めており、介護・福祉の仕事に就くのは初めてで、何も分からず不安だらけでした。一年目は覚えることが多く先輩職員の方々に色々教えて頂きながら仕事をしていると、あつという間に過ぎていきました。利用者さん一人一人の特性を理解し、それぞれに合った支援方法と声掛けを工夫しながら行っている先輩職員を見て手本にさせて頂き、日々、自分には何が出来るとかと思いついて支援しています。

一年経過すると自分で考えて行動する事、先輩職員の方々に相談しながら支援の仕方を見つけて工夫していく事で、不安な事も少しずつ減っていくようになりました。関りの少ない利用者さんとも自分からコミュニケーションを取っていく事で、話す頻度が増え利用者さんからも話しかけて下さることが多くなっています。最近では、以前話しかけて来られなかった利用者さんが朝から話しかけられたり名前を呼んで「こちちきて」と色々な話を沢山して下さるようになりまして。今後もコミュニケーションを積極的に取り、利用者の方々が楽しい生活、そして笑顔を見せただけのよう支援していきたいと思っています。



『入職して三年が経ち』

グループホーム事業所支援員 岡部 千恵

失敗を次に活かす事が大切であるという原点。様々な事業所で繰り返し返される支援者達の試行錯誤は、未だ多いとは言えない「障害者の居場所」を増やし、かつ、確固たるものに発展させていくはず。と研修で学びました。私も沢山失敗してきました。その度、落ち込んだり悩んだりしましたが同僚に相談したり、サポートをお願いしたりして何とか日々支援に努めております。

グループホームの入居者さんは比較的社会性があり意思もしっかり持っていて、その表出もできる人が多いので、その人の希望に沿った支援はしやすイと思えます。ただこちら側が「これくらいわかるだろう」「これくらい出来るだろう」と予断をもって対応しても、意外とそうではない場合が多いです。こちらの常識や規範をそのまま押し付けても失敗するので、しっかりとコミュニケーションを取るこトが大事かとおもいます。利用者の方々の意思を尊重して失敗をおそれず、色々チャレンジしていきたいです。



『亀小交流会を終えて』

荅山寮支援員 江崎 琢磨

例年、亀川小学校の五年生児童さんや先生方と一緒に福祉について考える福祉説明会や施設利用者さんとの交流会、椎茸の駒打ち体験を行っています。

利用者さんとの交流会はコロナ禍の影響で中止が続いていましたが、今年度はようやく行くことができました。五年生の児童さんには荅山寮ホール、多目的ホール、第二荅山寮ホールと三ヶ所に分かれていただき、それぞれが考えたゲームを利用者さんと一緒に楽しんでいただきました。趣向を凝らしたゲームがたくさんあり、都度利用者さんへ丁寧に説明されている姿がとても印象的でした。時には笑いが、時には悩む声が聞かれ、児童の皆さんや利用者さんにとっても素晴らしい時間が過ごせたように感じました。

今後もうこういった関わりを通じ、福祉について考える機会を発信できたならと思います。





旅の思い出

今年の旅行は天草島内で実施しました。苓山寮は上天草のシードーナツ水族館や牛深の海中公園。第二苓山寮、グループホーム

は御所浦を散策しました。シードーナツや海中公園では様々な海の生物や珊瑚礁を見る事ができ利用者の皆さんは目を丸くしながら眺めておられました。ホテルでの夕ご飯はとても豪華で皆さん喜ばれておられました。御所浦では恐竜博物館に行ってきました。大きな恐竜の化石に驚きながらも楽しく見学させていただきました。夜は皆で乾杯!美味しいお料理とお酒で楽しい時間を過ごすことができ大満足の旅行となりました。

苓山寮



第二苓山寮・グループホーム



創立記念57周年

近年感染症等もあった為、久しぶりにご家族、ボランティアの方々をお迎えしての開催でした。まず、

第二苓山寮とグループホーム利用者さんによる合同出し物では、ハンドベル演奏「小ぎつね」がありました。皆さんリズム良く上手にベルを鳴らし盛り上げて下さいました。次に、苓山寮利用者さんによる「紅葉」の合唱でした。皆さん練習の成果を出す事が出来ており、大きな声で歌って下さいました。

職員出し物では、苓山寮新人職員3名によるダンスの披露がありました。きらびやかな衣装でノリノリで踊られておりとても盛り上がりました。最後にボランティアの方々、ウクレレアンサンブルLaLaLaさんによる演奏でした。どの曲も盛り上がりましたが、一番盛り上がったのはハイヤの曲で、利用者さんも立ち上がって踊られていました。皆様のご協力のお陰で思い出に残る素晴らしい創立記念式典を開催する事が出来たと思います。



【新利用者紹介】十一月五日入所



まこ真子さん
とくなが まこ
徳永 真子
茗山 寮

「椎茸作業や陶芸の作業が好きです、これからよろしくお願ひします」

【退所利用者紹介】

光井 正敏さん 十月三十一日退所
島田 盛二さん 十一月十六日退所



長年、茗山寮で生活して頂きましたお二人の方が退所されました。今後ともゆっくり、穏やかに過ごして下さい。

浦本 昭男さん 十二月十三日退居

グループホーム「つばさ」を退居され、新しい施設へ移られました、いつまでもお元気でお過ごし下さい。

第20回 天草大陶磁器展

十一月一日～五日まで天草市の市民センターで天草大陶磁器展が開催されました。茗山寮も毎年参加させて頂いており、展示会で利用者様の作品や職員の作品を販売させて頂いております。初日には利用者の方々と見学もさせて頂き、プロの方々の作品を見ながら「今度作って見ましようか」と、次の作品作りの糧とさせて頂いております。



毎年沢山の方にお買い求め頂き、施設としても、利用者様としても次に繋がる意欲に変える機会となっており、次も頑張ろうという気持ちになっています。来年もよろしくお願ひ致します。

日常生活の風景



小田 義隆さん

茗山寮あすなる班に所属されております。コーヒーがとても好きな方で、週に数回コーヒータイムを行っております。コーヒーを飲んでおられる時は、ニコニコと笑顔でとても良い表情をされています。又、子供の話も好きで、毎日のように「子供は元気にしとるか」と支援員に話しかけて下さり、とても優しい一面を持っておられます。今後とも小田さんが元気で楽しく施設生活を送れるよう支援させて頂きます。



福田 緑さん

福田さんは普段落ち着いておられ、自ら積極的にコミュニケーションを取るタイプの方ではありませんが「今から何するの？」と優しく誰にでも分け隔てなく声掛けされ、一言、二言ですが優しい言葉のキャッチボールが成立しています。決して自分から近づいて強引に自分の話したい事を話すのではなく、近くにいられた方に優しく声掛けされる姿を目にして私たち職員も日々学ばせて頂いています。これからも優しい声掛けで人を笑顔にしたいと思っています。

＜ 出産お祝い ＞

第二茗山寮、糸田支援員に第二子のご誕生です。お名前は悠真（ゆうま）君だそうです。お子さまの健やかなご成長とご家族皆様のご多幸をお祈りしております。



＜ 行事予定 ＞

十二月

- 二五日 クリスマス会
- 二六日 餅つき
- 二八日 御用納め

一月

- 五日 御用始め
- 十日 鬼火焚き
- 十三日 成人の日

＜ 編集後記 ＞

早いもので今年も残すところ僅かとなりました。つい先日、年女の抱負を書いたような：一年あつという間ですね。笑顔で毎日を送れたことに感謝致します。皆様、どのような年でしたでしょうか。今年もクリスマス会、もちつき等まだまだイベントがあります。利用者の皆さんの笑顔の為、職員も一緒に楽しんでいきたいと思ひます。

寒い日が続きますが、お体に気をつけて、よいお年をお迎え下さい。最後に、皆様が無事かな新年を迎えられますようお祈り申し上げます。

